

第 3 回 白馬村計画審議会 会議録（要旨）			
日 時	令和 7 年 10 月 29 日(水) 13:30～16:30		
場 所	白馬村保健福祉ふれあいセンター 2 階 学習室		
出 席 者 数	21 名		
区分	団体・役職	氏 名	出席
村議会議員	白馬村議会議長	太田 伸子	○
村議会議員	白馬村議会副議長	丸山 和之	○
村教育委員会委員	白馬村教育委員会	松沢 亨	○
村教育委員会委員	白馬村教育委員会	服部 知子	○
村農業委員会委員	白馬村農業委員会	松沢 正猛	－
公共的団体の役員及び職員	白馬村区長会	太田 岳人	○
公共的団体の役員及び職員	白馬商工会	山本 孝男	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村消防団	星河 隆志	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村シニアクラブ	徳竹 禎三	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村民生児童委員協議会	太田 文敏	－
公共的団体の役員及び職員	白馬村身体障害者福祉協会	飯島 忠一	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村スポーツ協会	横山 秋一	－
公共的団体の役員及び職員	白馬村スキークラブ	横川 和彦	○
公共的団体の役員及び職員	しろうま女性会	田口 令子	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村社会教育委員	富山 正明	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村都市計画審議会	宮尾 英明	－
公共的団体の役員及び職員	白馬村観光地経営会議	丸山 徹也	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村4校 PTA 連絡協議会	今西 ひさ美	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村ボランティア連絡協議会	西浦 知子	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村観光局	福島 洋次郎	－
学識経験を有する者	特別養護老人ホーム白嶺所長	岡田 記子	－
学識経験を有する者	大北農業協同組合白馬支所長	市河 明広	○
学識経験を有する者	白馬村金融団幹事	白田 友和	○
学識経験を有する者	白馬村建設業組合長	太田 具英	－
学識経験を有する者	白馬村索道事業者協議会会長	星野 裕二	－
学識経験を有する者	Hakuba International Business Association	イアン・ミラー	－
学識経験を有する者	白馬 EV クラブ	渡辺 俊介	○
公募による村民	公募委員	津滝 俊幸	○
公募による村民	公募委員	松橋 舞	○
公募による村民	公募委員	高田 明利沙	○
事務局	白馬村役場 総務課長	田中 克俊	○
事務局	白馬村役場 GX 統括監	白濱 雄太	－
事務局	白馬村役場 総務課 企画政策係長	渡邊 宏太	○
事務局	白馬村役場 総務課 情報まちづくり係長	田中 元気	○
事務局	白馬村役場 総務課 企画政策係	小林 啓	○

1. 開 会

【事務局 田中総務課長】

開会を宣言した。(進行:事務局 田中総務課長)

2. あいさつ

【松沢会長】

ご多忙の中、第3回計画審議会にご出席いただき感謝申し上げます。

機構の変化に戸惑うことも多いが、ご自愛いただきたい。

これまでの検討を踏まえて、白馬村の目指す方向性がまとまりつつある。本日の審議会で、より良い形に仕上げていきたいと考えているため、建設的で率直で忌憚のないご意見をお聴かせいただきたい。

3. 報告事項 (進行:松沢会長)

(1)観光地経営会議(観光地経営ビジョン案)の検討状況

【事務局 渡邊企画政策係長】

<資料1により説明し、観光地経営会議の会長を務める丸山委員に補足説明を求めた。>

【丸山委員】

会議の中で様々な意見が出されている。「④ 持続可能なマウンテンリゾートコミュニティ・白馬」とあるが、住んでいる私たちと、訪れるお客様が一緒になって、どのように白馬を創っていくか、というところと、「世界水準」という言葉を上手く組み合わせられないかという意見が出された。

国内外から注目を浴び、開発が増加し、諸問題も発生している。欧州の山岳リゾートは長い時間をかけて歴史や文化が築かれてきたが、白馬村は短期間で建物が多く建てられている。変化のスピードが速いため、早急に受入態勢等を整えていく必要があり、共通認識として持っておきたい。

「世界水準」という言葉については、それぞれ捉え方があると思うが、一つでなくてもいいと思うし、大切にしていけるべき「白馬らしさ」についても引き続き対話していきたい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

次回の計画審議会でも、同様に検討状況を共有したい。

<質疑・意見等は特になかった。>

(2)白馬村の未来を考えるフォーラムについて

【事務局 渡邊企画政策係長】

<資料 2 について説明し、参加した委員から感想等の報告を求めた。>

【津滝委員】

「社会的共通資本」という言葉について、漠然とした概念しか持っていなかったが、占部さんの話を聴いて、空気や水のように当たり前に存在するもの(医療や福祉など)が簡単に維持されているわけではないということに改めて感じた。今回の計画策定でも「持続可能」という言葉がテーマになっているが、様々なものをいかに維持していくか考える機会となった。

4. 協議事項 (進行:松沢会長)

(1)基本構想(案)について

【事務局 渡邊企画政策係長】

<資料 3 について説明した。>

【松沢会長】

2 ページから 4 ページにかけて記載している「計画の概要」と「白馬村の概況」について、質問や意見、何か気になるところがあればお聴かせいただきたい。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

5 ページ目の「基本理念」について、質問や意見、何か気になるところがあればお聴かせいただきたい。

【西浦委員】

「支え合い」と「幸せ」がそれぞれめぐるのか、「支え合うことで幸せがめぐる」のか、どちらをイメージしているか。

【事務局 田中総務課長】

基本理念については庁内の課長会議でも意見を交わしたが、支え合うこと自体がめぐることもあるし、支え合うことで幸せがめぐるということもあるため、どちらも兼ねていると考えている。

【津滝委員】

基本理念は、今後 10 年間語られ続けるもので、それぞれの捉え方によって「何を指しているのかよくわからない」という声が出ることもある。これまで英語表記は無かったが、今回「Best Living Village」という言葉が

入っていて、それが最も大切にしたい部分かと思う。分かる人には分かるが、分からない人には分からないものであり、都度説明が必要になる。これまでの総合計画でも、「村ごと自然公園」が何を意味しているのか、「白馬の豊かさとは何か」という哲学的な表現はいかかなものか、といった意見があった。英語表記でも悪くはないと思うし、説明することを覚悟しているのであれば良いが、そうでなければ日本語に言い換えることも考えてもいいのではないか。「Best Living Village」については、「豊かで幸せに暮らし続けられる村」ということを表現しているものと思うが、もう少しうまく表現できないかと一読したときに感じた。

「幸せがめぐる」という言葉については、あまり使わない印象で違和感があるが、「誰かを幸せにすることが自分自身も幸せになる」ということを指しているかと思う。少し難しい表現のようにも感じる。

【事務局 渡邊企画政策係長】

英語表記については、「わかりづらい・相応しくない」といったご意見が出ることも考えたが、日本語にしたときに端的に言い表せる表現が見つからなかった。外国人住民が増え、多様な地域コミュニティが形成されつつある中で、英語表記を入れることが「白馬らしさ」でもあるかと感じた。今後、基本構想については英訳して英語話者等にも理解を促していくが、敢えて英語表記を入れることで、言語の壁を超えて共通認識として定着させていきたい想いもある。

一方で、否定的なご意見もあることは理解しているし、どうしてもその英語表記を入れたいというわけではなく、「住みやすい村、住んでいる人が幸せな村」という方向性が表現できれば良いと思っているので、委員の皆様のご意見を伺いたい。

【富山委員】

一番の目標は、「豊かで幸せに暮らし続けられる」という部分かと思うが、「支え合い」という言葉を無理に入れている印象を受ける。「支え合い」と「Best Living Village」がどう結びつくのか難しいと感じた。言葉にすると「そういうものだ」という気もするが、解説する際に丁寧な説明が必要かと思うので、シンプルでわかりやすい表現があればより伝わりやすいと思う。

【西浦委員】

「Best Living Village」は日本語に訳すとどうなるのか。短く表すと「幸多き村」といったイメージで差し支えないか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

「豊かに暮らし続けられる村」、「住みやすい村」、「住んでいる人が幸せな村」といった意味を込めている。

【太田伸子委員】

これから 10 年間使い続ける言葉と考えたときに、「共に生き、豊かさを育む」というのはわかりやすいと思うが、「支え合いと幸せがめぐる」というのは、人によって捉え方が異なる可能性がある。村の基本理念として、みんなで同じ方向を目指して進むためにも、方向性が伝わるわかりやすい表現が望ましいと感じた。英語表記については、高齢者からは遺憾に思う声が出ると思われる。

【事務局 田中総務課長】

令和 6 年度に村内 25 地区で懇談会を開催してきたが、各地区からは区民の減少や高齢化で作業等の負担が大きいという声が多く寄せられた。庁内では「助け合い」という言葉も出てきたが、理念として定め、福祉や教育など各分野の事業に展開されていくことを踏まえ、「支え合い」という言葉を選び、幸せと共に循環するような未来を目指していくこととした。

英語表記についても、様々な考えがあるが、「Best Tourism Village」と対比させるとわかりやすいと思う。キャッチフレーズ的な部分に英語表記を入れたとしても、後段で説明をすれば問題ないのか、そもそも英語表記を入れるべきではないのか、ご意見をいただきたい。

【丸山委員】

サブタイトル的な形で英語表記が入っていた方がいいと思う。

「Best Living Village」という表記について、英語話者に確認をしてもらっているか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

特に専門的な知見等で確認しているわけではないが、本日欠席しているミラー委員に資料は送付している。11 月 6 日に外国人経営者の会合(HIBA)で内容を説明して意見交換することになっているため、改めて確認したい。

【星河委員】

既に地域の絆が希薄になっている状況で、敢えて「支え合い」という言葉を入れることには賛成したい。

【津滝委員】

特にこの案や英語表記が悪いと思っているわけではない。基本理念を村民や事業者に浸透させていく中で、行政側の覚悟が必要だと思う。全庁的にも、子どもたちも含めた村民にも、丁寧に説明して、共通認識として理解を深めていってほしい。

【今西委員】

子どもにもわかりやすいように「思いやり」といった言葉を使えばどうか。思いやりがあれば支え合いも生まれると思われる。

【白田委員】

個人的には「支え合いと幸せがめぐる」は良い表現だと思っている。「支え合い”で”幸せがめぐる」の場合は、一方通行になってしまう印象がある。幸せを享受しているだけの人もいるが、そういった人が支える側に回る必要性が問われていると感じている。支え合いと幸せが相互につながり循環することが「めぐる」という表現になっていると捉えている。

【服部委員】

「支え合い」という言葉について、個人的には良い表現だと思っている。地域のつながりが弱くなっている中で、ここに「支え合い」という言葉があることで、相互に協力しようという人や、自主的に動く人が増えていくのではないかと期待している。

【徳武委員】

「支え合い」と「幸せ」は、「仁」すなわち「思いやり」ということではないか。子どもたちにも「思いやり」という言葉の方がわかりやすい。

【富山委員】

「支え合い」は良い言葉だし理念に入れるのは全く問題ないと思っている。「支え合う社会」と「幸せに暮らす社会」を「めぐる」という言葉で表現していると理解するようになってきた。「めぐる」の解釈も分かれるかもしれないが、下段の説明で丁寧に伝えるしかないかと思う。

個人的には「Best Living Village」はとても好きな表現で、どうすればそれを実現できるのか、イメージしやすい言葉だと感じる。

【松橋委員】

基本目標については、ひらがな表記になっていて、子どもたちにも伝わりやすいし、温かい雰囲気も感じた。誰にでもわかりやすいということを考えると、「思いやり」という言葉も良いが、「支え合い」と「幸せ」はとても良い言葉だと思うので、「ささえあい」や「しあわせ」といったようにひらがなで表記してはどうか。

【事務局 田中総務課長】

漢字をひらがなにしてお柔らかなイメージを出すこともあるが、それぞれ受け取り方や印象が異なる面もある。

【田口委員】

キャッチコピーはもう少し長くてもいいのか。具体的な案はないが、もう一言追加するとより良くなる可能性があるのではと感じた。

【渡辺委員】

1行目(共に生き、豊かさを育む)と2行目(支え合いと幸せがめぐる「Best Living Village」)については、同じようなことを言っているので、強調されて良いと思う。「住んで良かった」、「帰ってきたい」といったような表現も記載されているが、一文追加するのであれば、社会的共通資本として、自然環境など地域の価値を未来に残していくという意味合いが含まれても良いと感じている。

【山本副会長】

基本的には原案が気に入っている。この表現を見たときに、白馬村が一つの家族であるような、家族愛のようなものを感じた。一丸となって地域の課題に取り組む「株式会社白馬村」という視点で未来を見据えても、様々な要素や想いが集約されて良いフレーズだと思う。

【白田委員】

最も言いたいことは何なのかというところが少しぼやけてしまっているがゆえに、それぞれの言葉が目立ってしまっているように感じている。「住み続けたい村」というのがキャッチフレーズに入ってくると、ずっと入ってきやすくなるのではと感じる。一番伝えたいことをしっかり訴えていくことは重要で、様々な施策を拾い出した

ときに、「支え合いに合致しているのか」、「それによって幸せがめぐっているのか」ということを判断の軸にしてほしい。

【高田委員】

次のページの将来像の補足説明の部分は、とても簡潔でわかりやすい。

説明分の中で、支え合いやおもてなしなど、地域の伝統・歴史・文化が失われつつある理由として、「村民の多様性」や「価値観の多様化」を挙げていることに違和感があり、わかりにくさにつながっているように感じた。

【太田伸子委員】

「支え合い」と「思いやり」は、意味が少し異なると思う。少し長くなってもいいのであれば、「支え合いと思いやりで幸せがめぐる」とすればわかりやすくなるのではないか。

【津滝委員】

前段の「共に生き」の中に「思いやり」に近い意味合いが込められているようにも感じる。下の説明をしっかりと添えることや、それに忠実に実現していくことが重要なのではないか。

【松沢会長】

様々な意見をいただいたが、原案の言葉が良いという意見も多数あった。漢字とひらがなの表記についても悩ましいところであるが、当初の事務局案で案を取りまとめるということでいかがか。

【太田岳人委員】

「思いやり」という表現もとても良い言葉であるため、説明文の中で入れる形で理解してもらえば良いのではないか。

【松沢会長】

そのような形に事務局で修正し、それ以外は資料に記載の表現で進めさせていただくということでよろしいか。

<異議なし>

【松沢会長】

続いて、7 ページの「白馬村の価値」について、4 つの項目に分けて示されているが、質問や意見、抜けや漏れがあれば伺いたい。

【西浦委員】

「(1)自然環境」と「(2)山岳景観と田園風景」について、似たようなものの印象を受けるが、分けた方がいいものか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

明確に分けられないというか、重複する部分も出てくるが、(1)については個別の動植物や水・空気・土など自然を構成するものを指し、(2)は風景の要素として構成されるものを指すイメージで分類した。

【今西委員】

長野五輪を成功させたことを誇りに思っている村民も多いため、「(3)地域の歴史と文化」に長野五輪のことを記載した方が良いのではないか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

追記する。

【津滝委員】

過去の計画にはなかったもので、「白馬村の価値」を定義付けたものだとなると、各項目の文末を揃えた方が良いのではないか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

一文目で定義付けて、二文目で方向性を示すものとそうでないものがあるが、文末を整える。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

特に意見等は無いようであるため、意見のあった2点を修正する形としたい。

続いて、8～9ページの「白馬村民として大切にしたい考え方」について、6つの項目に分けられているが、こちらについて質問や意見はあるか。

<質疑・意見なし>

【事務局 渡邊企画政策係長】

事務局からは、表題(タイトル)について、「白馬村民として大切にしたい考え方」と「白馬人の心意気・心構え」について、併記するのどちらかを採用するのか、ご意見を伺いたい。

「白馬村民として大切にしたい考え方」は一般的な言い方であるが、前回の審議会で「白馬人」という言葉が出されたため、それを活かすのであれば括弧書きの方を採用してもいいかと思った。ただし、「白馬人」について説明しないと疑問に思われるのではと感じている。

【松沢会長】

括弧書きの方が良いような気がするが、委員の皆さんのご意見はいかがか。

【渡辺委員】

「白馬人」という言葉の定義はあるのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

現状、特にないが、前回の審議会で白馬人について話をしていた委員の皆さんからどういった話であったか共有いただきたい。

【松沢会長】

特に定義付けて使ったものではないが、「白馬村を愛する仲間」というイメージであったように記憶している。

【富山委員】

「白馬村に住んでいるから白馬村民」という行政的な位置づけではなく、「白馬村を想い白馬村のために暮らしている想いの強い人たちが多く住んでいる」という話の中で、そういう人たちこそ「白馬人」であるという話をしていた。白馬村民と同義ではなく、ここに書かれていることは「白馬人」になるための要素と考えている。

【松沢会長】

特に定義付けて使ったものではないが、「白馬村を愛する仲間」というイメージであったように記憶している。

【丸山委員】

住民票の有無にはあまりこだわりたくない。仕事で白馬に関わる人もいるし、別荘所有者等もいる。そう考えると「村民」という言葉はあまり使いたくないと思う。

【渡辺委員】

「白馬人」という表記だと、村外から通勤する人も含まれると思うが、「村民」としてしまうと、そういう人には関係ないと捉えられてしまう。意図して明確に使い分けた方が良いと思う。

【白田委員】

「白馬村に関わる人に大切にしてほしい」ということであれば、「白馬村民」ではなく、「白馬村”で”大切にしたい考え方」のように記載すると誤解が生じないのではないか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

目指すところは、通勤・通学する人なども含めて「白馬村に関わる全ての人」を対象に、意識してほしいことを挙げている。ここに書かれていることを実践している人が「白馬人」であるということを今の議論で理解した。

【田口委員】

総合計画の対象は、村民だけでなく関わる人全てが対象ということか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

基本的には村民が対象となるが、産業面では事業者も関わってくるし、別荘所有者や関係人口等も広く理解や協力をしてもらうことになってくるため、村民に限定するものではなく、広い意味では白馬村に関わる全ての人が対象ということになる。

【高田委員】

村の総合計画として、白馬に関わる全ての人に対して行動や思考を強いるような表現は、あまり適切ではないように感じている。対象を人にするのではなく、「この村を良くするためにこういう考えを持ちましょう」という表現の方が適切なのではないか。

【富山委員】

何かを定義付けるといよりは、「ここに書かれているような人を増やすことで、より良い白馬村をつくっていきましょう」という意味合いで書かれているものだと理解している。

【松沢会長】

「白馬人」という言葉を使うのであれば、意味を説明しないと理解してもらえなかったり、誤解を招いてしまったりする恐れもあるが、線引きや難しい定義付けなどはしたくないという思いもある。

【渡辺委員】

今後、この表現を使っていくことに対して、行政内部でも戸惑いがあるようなら、わかりやすい別の言葉に置き換えてもいいのではないか。

【津滝委員】

あまり難しく考えずにこのまま使ってもいいのではないか。

【星河委員】

表題ではないが、(1)は住民同士のつながりや支え合いについて書いたもので、(2)はゲストを迎えるにあたっての「おもてなし」と「おもいやり」について書かれているという認識で合っているか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

(1)は人と人との関係性について記載したもので、(2)は内外にかかわらず個々人の想いや精神について記載したものと整理している。

【星河委員】

そうであれば、(2)についても地域住民が含まれることが伝わるような文言を入れてもらえるとありがたい。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

表題については、誤解を招かないような書き方に修正いただき、(2)については地域住民の記載も追加する形でまとめていただきたい。

最後に、10～11 ページ、4 つの基本目標について審議したい。

【富山委員】

「3.まち」に関して、住環境を理由に若い人たちの流出が相次ぎ空洞化しつつある。今後、ますます深刻化していくことが予想される中で、「現状」には記載があるものの、目標の部分で住宅に触れていない。具体的に記載した方がいいのではないかな。

【事務局 渡邊企画政策係長】

目標の部分にも住環境の整備について記載するようにする。

【津滝委員】

「3.まち」に関して、「安心・安全な生活」とあるが、安全があってこそ安心が生まれるため、「安全・安心な生活」としていただきたい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

ご指摘のとおり修正する。

【富山委員】

「4.しごと」について、「雇用があっても住めない」という状況になっている。雇用の創出が定住に結びつかない中で、目標に掲げて良いものか。

【事務局 田中総務課長】

「安定した雇用創出」については目指したいものではあるが、住宅政策については「3.まち」で触れている。

【事務局 渡邊企画政策係長】

以前と比べると増えているかもしれないが、通年の安定雇用についてはまだ改善の余地がある。所得水準の向上等も含めて、この部分では「しごと」に関する記載で、10 年先を見据えてある程度抽象的な表現に留めている。

【津滝委員】

今後建設が計画されている大型の宿泊施設が複数あると聞いている。働く場所はあるが、圧倒的に従業員が不足する状況となる。地域の外から来てもらうしかないが、人の奪い合いが熾烈になると思われる。

【渡辺委員】

「3.まち」で住環境の整備を記載して事業として取り組んでいくのであれば、「4.しごと」は今の記載のままで良いのではないかな。

【松沢会長】

「基本目標」という位置づけでは、ここまでしか書けないかという気がする。具体的な施策に落とし込んでいただきたい。ここまでに出された意見を反映することとして、4 つの項目に分けること、それぞれの記載等について、他に異議ないかな。

<異議なし>

【松沢会長】

項目ごとの審議は終了したが、一括して言いそびれたことや追加で何かあれば伺いたい。

<意見等なし>

【松沢会長】

特に無いようであるため、基本構想(案)に対する審議を終了とする。

【事務局 渡邊企画政策係長】

本日いただいたご意見を取りまとめて、基本構想の案を会長から村長に答申いただくこととなる。

それを受けて、村民からの意見募集(パブリックコメント)を実施し、12月議会に提出したい。

(2)基本計画の策定について

【事務局 渡邊企画政策係長】

基本構想(案)を念頭に置きながら、どのように実現していくのか、庁内で計画策定に着手していくが、行政は前例踏襲で現行の第5次総合計画を基準に事業を考えがちになってしまう。委員の皆様からも基本構想を実現するための具体的な施策について、積極的にご提案いただきたい。本日は時間がなくなってしまったため、時間をかけて協議することはできないが、この場で共有したい意見をお持ちの方がいればお聴かせいただきたい。

【山本副会長】

商工会では、創業・起業や事業承継といった重点項目を設定して行政と連携して取り組んでいくこととしている。基本計画においては、その辺りをしっかり盛り込んでいただきたい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

現行の第5次総合計画でも謳っているが、改めて観光課に伝える。

【西浦委員】

住宅課題については、現時点での整備方針などはあるのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

土地の分譲や民間と組んで事業を展開するなど様々なパターンが考えられるが、現在検討している状況である。

【事務局 田中総務課長】

基本計画の策定に関しては、項目が多くなるため、事前に案に対するご意見を提出いただき、それを取りまとめた上で審議会を開催するようにしたい。

【松沢会長】

他に質疑や意見はあるか。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

以上で協議を終了する。

5. その他

【事務局 田中総務課長】

事務局から事務連絡をお伝えする。

【事務局 渡邊企画政策係長】

次回の審議会は1月中下旬に開催し、基本計画について審議し、2月にはパブリックコメントを実施し、3月の議会で報告する予定である。基本計画(案)については、早めにお送りできるよう努める。

6. 閉会

【事務局 田中総務課長】

長時間にわたる慎重審議に感謝申し上げる。

基本構想は10年に一度の見直しで、構想案の策定には毎回時間をかけて議論している。今回は村民の意見を広く聴くことを重視して取り組んでいることもあり、委員の皆さんにもご自身の意見だけでなく、村民の想いも触れていただいて審議してきた。

本日いただいたご意見について、基本構想(案)への反映は会長に一任いただき、近日中に会長から村長に答申し、パブリックコメントに移っていきたい。

これまでの委員のご理解・ご協力に感謝申し上げ、第3回計画審議会を閉会する。